

社会科学習指導略案

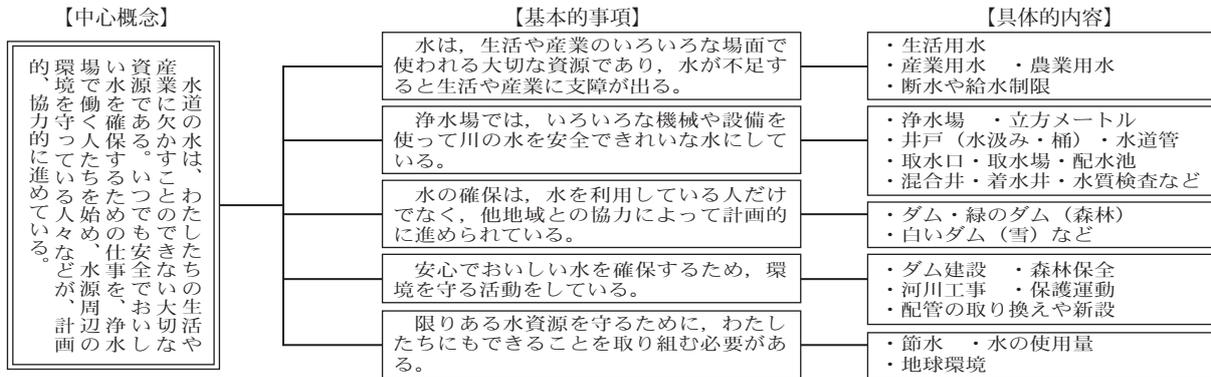
4年2組 32名 指導者 柳田 健一

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 統計資料や実物などを提示し、子どもの意識や意欲を高めながらリレーションマップを活用することは、子どもの実態に即した学習問題を作る上で、効果的であったか。

1 小単元名 水はどこから (大単元名：住みよいくらしをつくる)

2 小単元の構造 (概念構造図)



3 指導計画 (総時数17時間)

リ図：リレーションマップ記入

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
つかむ・見通す	1 水を使っている場面を振り返り、水の大切さについて話し合う。リ図 【関・意・態】 水がわたしたちの生活に欠かせないものであることを知り、水道について調べることに意欲をもっている。	1
	2 水道料金や使用量の多さから疑問をもち、学習問題を見い出す。リ図 水道の水はどこでどのようにつくられ、送られてくるのだろうか。 【思・判・表】 たくさんの水を確保するには工夫や人々の働きが必要であることに気付いて、学習問題を見い出している。	1 (本時)
	3 学習問題について予想し、追究の柱を立てる。 ◎ 蛇口の先はどこにつながっているのかな？ ◎ 飲み水をつくるしくみ (浄水場見学) ◎ これからのくらしと水 【思・判・表】 統計や資料から読み取ったことをもとに、学習問題について予想し、追究の柱を立てている。	1
調べ	4 水道の水はどこからきているのか調べる。 【技 能】 学校にある水道に関係する施設を具体的に観察し、ノートにまとめている。	2
	5 浄水場見学の計画を立てる。 【技 能】 調べたいことを見て分かること、聞いて分かることに分けて整理している。	1
	6 浄水場を見学し、水をきれいにするしくみを調べる。 【知・理】 浄水場では、きれいな水だけでなく、安全でおいしい水を供給するためにたくさんの人々が努力や工夫をしていることを理解している。	3
	7 鹿児島市の飲料水のふるさと (水源地) を調べる。(甲突川・稲荷川・万之瀬川・井戸) 【知・理】 水を確保するために、利用者や河川流域の住民の相互の協力によって計画的に進められている。	2
まとめる・生かす	8 きれいな川をつなげるための地域の取組を知る。(G・T・川内川) 【思・判・表】 川内川を守る会の方の話聞いて、自分たちにもできることはないかの視点で、作文に表現している。	2
	9 これまでの学習をまとめ、わたしたちにできることは何か話し合う。リ図 水道の水は、わたしたちの生活や産業に欠かすことのできない大切な資源である。いつでも安全でおいしい水を確保するための仕事を、浄水場で働く人々を始め、水源周辺の環境を守っている人々などが、計画的、協力的に進めている。	2
	10 電気やガスなどの他のライフラインについて調べる。 【思・判・表】 水道の学習で学んだことと比較して、その大切さや維持・確保するための計画的、協力的に進めていることなどは同じだと考えている。	2

4 本 時 (2 / 17)

(1) 目 標

水道料金を払っていることやたくさんの水を使っていることや水道料金を払っていることなどから疑問をもたせ、学習問題を見出すことができるようにする。

(2) 評価規準

たくさんの水を確保するには、人々の働きや様々な工夫が必要であることに気付いて、学習問題を見出ししている。 【社会的な思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

本時は、「つかむ・見通す」過程の第2時で、生活の様々な場面で使われている水に関する疑問をもたせ、学習問題を見出す学習を行う。

導入で「一日に一人が使っている水の量は予想させ、実際に牛乳パックを示し、量感を味わわせるとともに、人口増加や生活スタイルの変化で、水の使用量が増えている事実から、たくさんの水を確保する必要があることに気付かせたい。そこで、みんなだったらこの水を使うか、どのように運んでくると問いかけ、その経路を予想してリレーションマップ(関連図)にかかせる。リレーションマップをもとに話し合わせることで、川の水を利用していることや浄水するしくみや送水する施設が必要なこと、そのために水道料金を払っていることなどに気付かせ、小単元の学習問題をつくる。

(4) 本時の展開

[]: 子どもの意識 (資): 資料 () : 指導 ※: 評価

時	過程	主な学習活動と教師の手だて・評価
8	つかむ・見通す	<p>(繰り返し活動：地図帳の使い方) 本時で扱う福岡県や福岡市・大野城市に関するクイズ(位置・人口)に答える。</p> <p>1 一人が一日に使う水の量を予想する。 1ℓの牛乳パックで何本分か。 〔・約292本分……292ℓ(教科書から)〕</p> <p>めあて 水道についてもっと調べたいことから学習問題をつくらう。</p> <p>2 家の中で使う水の量の内訳や市全体の使用量や人口の変化などグラフを読み取り、その理由を話し合う。</p>
30	調べる	<p>〔表題・縦の軸・横の軸・変化の読み取り・出典 ・水の使用量も人口も年ごとに増えている。 ・人口が増えたから。 ・水をあまり使わない生活から多くの水を使う生活へと生活スタイルが変わってきたから。(個→グループ)〕</p> <p>3 どこの水を、どのようにして家まで運ぶか、その方法や経路を予想し、リレーションマップにかかす。</p> <p>4 リレーションマップをもとに、全体で話し合う。 〔川の水・池の水・井戸の水 ・水道管で送っている。 ・途中で川の水をきれいにする工場がある。〕</p>
7	まとめる・生かす	<p>5 話し合ったことをもとに、学習問題をつくる。 水道の水はどこでどのようにつくられ、送られてくるのだろうか。</p> <p>6 次時の学習を確かめる。</p>

(資) 水道水の入ったペットボトル 牛乳パック292本

実際に牛乳パックを提示することで量感をつかませ、たくさんの水を使うことに気付かせる。

グラフの読み取りは、調べ学習の土台となるので、書画カメラで提示しながら読み取りの手順を追って丁寧に指導する。

(資) 水道使用量の変化や人口の変化のグラフ

水の使用量の違いを、手洗いと洗濯機、食器乾燥機などを使った場合との比較で具体的に考えさせる。

(資) リレーションマップ用のワークシート

※ 大量の水を飲めるようにする必要性や水道料金を払っていることから考え、施設やしくみの工夫があることに気付いている。(リレーションマップ・机間巡視)

- リレーションマップにかけている子には、順序良く説明できるようにマップに数字を書き入れるよう助言する。
- リレーションマップがかけていない子には、既習のごみの処理の方法や経路を想起させ、水道を逆にたどって考えてみることを助言する。